

## 緑園誕生の生い立ちから今日まで

《開発当初は 53 世帯の山村でした》

元緑園連合会長 齋藤 義晴

### NO.1 【緑園誕生の生いたちは鎌倉郡中川村岡津から】

この地域は昔、明治から昭和の初期の地名としては、相模の国鎌倉郡中川村岡津と呼ばれていました。鎌倉郡は現在の鎌倉市、旧戸塚区、港南区、旭区、藤沢市の一部を指していました。中川村は瀬谷、阿久和、岡津、上矢部、名瀬、秋葉を名乗っていて東海道線の西側を指します。この地域緑園は中川村に属していた為、町内活動などは3Kmも離れたところまで行き来していました。日常の便も非常に悪く、戸塚に出るには、岡津のバス停まで3Km余り、二俣川駅までは徒歩で4~50分の足の便の非常に悪い地域でありました。



昔の写真と講演する齋藤義晴氏

### NO.2 【緑園は稲荷谷、子易、須郷、名瀬の村】

この地域緑園が誕生する前は戸塚区の一部岡津町でありました。岡津町は南北に5Km、東西に1.5Kmと長方形で緑園は一番北に位置していました。明治、昭和の初期ごろは地域の呼び名も、字名を使っていました。稲荷谷、子易(こやす)、須郷という三つの部落で呼び合っていました。今日の1~7丁目を指しておりほかにこの地には池ノ谷という地名もあります。今の1、2丁目が稲荷谷、3、4丁目と6丁目の一部が子易、五丁目は名瀬町で、6、7丁目は須郷と呼び合っていました。池ノ谷は現在の神明台処分地一帯を指します。火薬工場があり山間には幾つかの火薬倉庫が点在していました。

#### 昭和 47年開発前の岡津・名瀬町の様子



昭和 47年頃の岡津町字山野入口  
(現、緑園3.6丁目付近)

### NO.3 【開発は昭和42年から13年間の 面積 122万㎡、400億円の大開発事業】

この地域が開発されるようになったのは昭和42年頃から、話をはじめり本格的に地権者との理解が得られたのが昭和45年で3年がかりでした。その後横浜市の先進的な街づくり構想にもより、昭和49年に地域の区画整理事業として、7年がかりで始まりました。相模鉄道が事業代行者としてスタートをしました。開発総面積は122万㎡で工事期間は実に13年がかりの大開発事業でありました。また400億円の巨大な工事費がかかりました。この開発に関して長期間であった為、協力者の中でも日の目も見られなかった人も何人か居られました。長い年月の工事が物語っています。中でもいずみ野線の工事は、少し前のS40年ころからすすめられていたため、昭和51年4月に開通し緑園都市駅周辺も急激に街づくりが始まりました。またフェリス女学院大学の開校は昭和53年で地域発展の要でもありました。



昭和 47年頃の岡津町字稲荷谷:現緑園一丁目付近



昭和 47年頃の名瀬町字仲谷:現緑園五丁目付近

### NO.4 【昔の住民のよりどころは山王神社の春祭り】

開発当初は53世帯しかない山村で、山林、田畑に囲まれていたところで商店もなく、月に、2、3回程度行商人が回ってきていました。自給自足的な生活環境の地であった。また昔の住民のよりどころは、現在3丁目にあります山王神社の春祭りであった。大正7、8年頃まではお祭りの余興として田舎芝居が盛んであったと聞いています。この山王神社は滋賀県の日吉大社が本山本宮で、その山王権現のご神体がまつられてあります。山王神社は江戸時代、時元禄13年頃この地に作られ約350年ほどの歴史があると聞いています。村の氏神様としてまつられ、村の安全、五穀豊穡など願って皆さんに守られ、今日に至っております。地域を守っている唯一の神社であります。

## NO.5【横浜市の先進的街づくりと地権者の土地提供】

緑園の開発は横浜市の先進的街づくり計画と共に進められ、開発に当たり地権者は平均44%の土地を道路や公園、公共施設用、用地に提供し今日の素晴らしい緑園の街が完成しています。街の完成と共に行政、地域の協力にて、幾つかの施設が出来始め、この街に最初に出来た公共施設は平成2年、駅前交番でした。この交番は新橋町にあったもので緑園に移してもらったものです。警察も財政難の理由で新規には増設せず移転をしたもので新橋町の住民の協力があったものです。その後人口も日増しに増え、いろいろの施設が出来るようになりました。平成2年には緑園東小学校、平成6年には二つ目の緑園西小学校が開校されました。平成5年には緑園消防出張所、さらに緑園地域交流センター等が出来ました。また商店街も急速に出来始めました。

昭和56～57年ごろの緑園の造成工事中写真



1、2丁目付近



サン・ステージ西の街付近

## NO.6【四季の径の地下に子易川が今も流れる】

またこの緑園地域は高いところで80m余りあり、40mの起伏の多いところでもありました。気温も1丁目と7丁目では2度Cの温度差があります。この地の中央部には3Kmもの子易川があり阿久和川へと流れ、合流し柏尾川へと続き片瀬、江ノ島の海へ流れています。子易川の上流は武威国境まで(旭区大池公園)続いていました。この川は開発時に遊歩道として四季の径の地下を流しています。周りの山からの清水が流れ込んだ川で、水がきれいでも生活用水にも使っていました。川魚も沢山いました。中でもこの地域はホタルの繁殖の多いところで、歩いていると顔に当たるくらい多くいました。さらに田んぼや畑作業はもとより、養蚕や炭焼きも盛んなところでした。この近辺、瀬谷、保土ヶ谷には生糸工場もあり、マコを近場の工場へもって行ったようです。横浜には生糸検査場もありました。私の祖母などはマコから生糸を取り機織機で布地を作り、着物を作り着ていました。



1、4丁目付近

## NO.7【緑園地域交流センターを地域の活動拠点に】

この地域交流センター(地域の活動拠点)の建設、位置づけについては横浜市のゆめはま2010プランの中で、地区センターの建設計画は一区4館と言う計画があり、緑園の施設は4館以外にかなり難しい立場におかれていました。しかし地域は活動拠点を希望し続けました。平成元年に障がい者の通所更正施設をこの地に作りたくと福祉局より話がありました。この件については、地域の一部には反対意見もありましたが、地域の活動拠点を優先に話し合いを進め複合施設(活動拠点・障がい施設・ショート施設)として特例で調整建設してもらいました。消防署やこの施設を作るにあたり、横浜市福祉局とで3年がかりの話し合いでようやく完成しました。今日に至っては大勢の皆様が満足されております。複合施設の総工事費は13億円かかっております。今や地域も少子高齢化と共に、住環境に課題が山積みしていますが、安心して暮らせる地域に努力発展を願っております。街が出来て30年近くになるとこの街も当初の活気が薄れてきますし住民も少し厭がきますし、建物も古くなりこの時期が転換期ではないでしょうか。地域も活性化にいろいろ工夫をして努力しています。

## 終りに【齋藤氏への御礼と地域の皆様へ】

齋藤さんは、地域の連合会長を始め民生児童委員長も長く務められ、緑園の開発から今日に至るまで、地域の発展に多大な貢献をされました。緑園の生いたちについては、小学校やいろいろの場所で講演されていますが、今回は、今後の緑園が転換期にさしかかっていることや、今後の発展に地域をあげて取り組む必要を感じ、民生児童委員協議会の先輩である齋藤氏にお願いし開催致しました。

当記録は、緑園民生児童委員協議会の講演会(平成23年3月9日、緑園地域交流センター)をご本人の了解を得て編集したものです。